令和6年度　江戸川区立春江小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・進んで学ぶ子　・じょうぶな子　・思いやりのある子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・笑顔とやる気とやさしさあふれる学校 ・主体的に学び、考え、行動できる子　　自分を大切にし、他を思いやることのできる子 ・子供のことを第一に考える教師　子供のよきモデルとなる教師　互いに協力し合い、認め合い、高め合う同僚性の意識が高い教師
前年度までの本校の現状	成果 ・地域、保護者と連携した教育活動の実施 ・校内研究（国語科）全学年研究授業の実施、春江塾（教員研修）実施による授業力の向上 ・異学年交流の実施による、交流活動の充実	課題	・学力向上 ・組織的学校運営の充実 ・さらなる教員の授業力向上

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	**○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施**	・江戸川っ子study week!の実施 ・東京ベーシックドリルの活用	・東京ベーシックドリル診断シート正答率が70%以上	B	A	B	東京ベーシックドリルは2年3年4年2クラス5年が達成。ドリルパークの取組を強化し、家庭学習習慣につなげる。	B	基礎基本の定着には、理解できるということが大切である。力を入れてほしい。	A	東京ベーシックドリル診断シート正答率が2学期は全学年70%以上になった。	B	上手に活用して学力の向上につながるとよい。	実態をもとに目標値を決め、取組を強化する。
		・デジタルドリルの活用 ・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・児童アンケート「授業は分かりますか」で肯定的回答85%以上	B	B	B	91%が肯定的評価l　ICTを活用した授業、デジタルドリルの活用　　放課後補習教室、本校独自の補習教室の実施	B	身に付けたことをいかして、子供にイメージを膨らませてほしい。	B	児童アンケート「授業は分かりますか」で90%が分かると答えた。引き続きどの子にも分かる授業を目指す。	B	タブレットの使い方で問題が生じていると聞いている。適切に使用できるとよい。	校内研究会を通して、教員の授業力の向上を図り、基礎学力の向上につなげる。
	○読書科の更なる充実	・読書科校内研修会の実施 ・学校応援団、司書と連携した読み聞かせの実施	・児童アンケートの読書に関する項目で数値向上	B	A	A	読書科教員研修会7月に実施 学校応援団、司書、教員による読み聞かせの実施	A	読んで分かるということはイメージができるかということ。イメージをもつことの大切さを伝えてほしい。	A	児童アンケートでは、昨年度同様8割以上の肯定的評価であった。図書館司書や応援団と連携することができた。	B	本校の読書の取組で本好きになった報告がある。本を読まなくなった児童がいると思う。サテライトはありがたい。	図書を利用した探究的な学習を計画的に行う。
体力の向上	**○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実**	・体育科の授業における「春江準備運動」の実施	・児童アンケート「運動が好き」について80%以上が肯定的回答	A	B	A	84%の児童が肯定的評価　春江準備運動の全クラス実施 体力テストの結果、持久力、投力の記録向上	B	事前指導によって投力が向上したことは手立てとして良かった。50m走については例年低い傾向にあるのは改善策が必要。	B	児童アンケートでは80%が肯定的評価だった。春江準備運動を行い、運動量の確保をした。	A	体力テストの結果が上がったことはよかった。	引き続き、補助運動として実施する。
		・「風の子運動」「元気ッズタイム」「なわとびチャレンジウイーク」を生かした体力の向上	・取組カードを100%の児童が活用	B	B	B	運動遊び、なわとびの実施。なわとびカードの活用。	B	体力向上を図るには継続的な取り組みが必要。体育だけでなく、外遊び等も積極的に取り組むことも大切である。	B	持久走、なわとび、元気ッズタイムの実施により、ソフトボール投げ、シャトルランなどの記録が向上した。	A	様々な運動を工夫している様子が分かる。	楽しみながら体力の向上につなげていくようにする。
共生社会の実現に向けた教育の推進	**○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実**	・校内委員会における個に応じた指導、支援体制の整備 ・校内研修の実施	・月1回校内委員会を実施 ・校内研修年1回の実施	B	B	B	校内委員会月に1回以上開催。支援の充実を図る。特別支援コーディネーターによる研修会、通常級担任の参観実施。	B	様々な児童がいる中で、個に応じた対応をしていくことは大切である。組織的な対応も継続して欲しい。	B	校内委員会を月１回開催し、支援が必要な児童の対応等話し合い、指導に生かした。	B	家庭との連携も大切である。協力を呼び掛ける。	校内委員会にSCや心理士の参加を促し、さらに個に応じた対応を図れるようにする。
	○エンカレッジルームの活用促進	・個別対応ができるエンカレッジルームの計画的運営	・全教員で行う組織的な対応	B	B	B	エンカレッジルーム担当による個別支援を実施。個に応じた対応を図っている。	B	エンカレッジルームは効果的に活用されているか。不登校の改善につながるとよい。	B	不登校気味の児童や個別対応が必要な児童の対応として、活用することができた。不登校の解消に数名つながった。	B	スマホやゲームの影響で、起きられない児童が増えているとを聞いている。生活リズムを整える必要がある。	効果的な運用を図る。
	○副籍交流、特別支援学級との交流及び共同学習の実施・充実	・年間指導計画に基づいた交流、共同学習の実施 ・全児童対象の理解教育の実施	・特別支援学級との交流学習を前年度より増加、理解教育を年1回実施	B	A	B	年度当初計画した交流及び共同学習を実施。	B	支援学級設置校として通常級の児童と交流できるのは貴重。計画的にできる限りの交流ができることを望む。	A	昨年度よりも交流学習、共同学習の機会を増やすことができた。児童同士の積極的な交流が見られた。	A	交流は続けてほしい。	年度当初に交流、共同学習の計画をたて計画的に実施する。昨年度より回数を増やす。
不登校・いじめ対	**○豊かな心の育成**	・縦割り班活動（異学年交流）の年間通じての実施	・児童アンケート「他の学年との関わり」で80%以上の肯定的回答	B	B	B	肯定的評価77%。高学年が主体的に関わる姿が見られる。全校遠足に向けて活動を計画中	B	仲よく活動ができているのがよい。	A	年間を通じて、縦割り班活動を実施する中で異学年交流を図ることができた。	B	他学年との交流活動を実施している。	異学年交流活動にあたり、計画の立て方、交流の仕方等事前準備を適切に行う。
		・いじめ防止に特化した授業年3回以上の実施	・児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的回答が90%以上	B	B	B	肯定的評価87%。いじめ防止授業、教員研修、アンケート実施と対応	B	いじめについて、記録をとるなど対応をしっかりしてほしい。	A	学校が楽しいと答えた児童は90%と１回目のアンケートの結果より上昇した。いじめ防止の対策を続けていく。	B	家庭との連携、協力が大切と思う。	教員研修のさらなる充実を図る。

応の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的回答が90%以上	B	B	B	支援が必要な児童の対応について関係職員との連携を図る。	B	「学校が楽しい」の肯定的な回答が87%は評価できるが、そうでない13%の児童への対応を相談機関を活用して行ってほしい。	B	担任、特別支援教育コーディネーターと連携し対応した。定期的な情報交換をしていく。	B	スマホの利用で朝起きられない児童もいると聞いている。その対応も必要。	SCやSSWの校内委員会や職員夕会への参加など関係職員と連携を強化する。
学校（園）の実現 地域社会に開かれた	○学校ホームページの充実	・学校ホームページにおいて各学年ごとに1～2週間に1回以上更新する。	・保護者、地域のアンケートで80%以上の肯定的回答	B	B	B	ホームページの運営の仕方を整え、更新を増やして教育活動の様子を配信する。	A	校外学習や宿泊行事の様子等、ホームページにあげられており、活動の様子がよく分かる。	B	前年度より３%上昇し、「わからない」は減少した。引き続き、分かりやすい配信を目指す。	B	学校の様子がホームページを通して分かった。行事以外の普段の様子も知りたい。	更新を増やし、さらなる充実を図る。
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会における意見交換	・年3回実施	B	A	B	1学期、2学期にそれぞれ開催。ご意見をもとに改善を図る。	B	学校にしっかり対応してもらい地域は見守っていく。	A	年３回の学校評議員会を実施し、ご意見ご感想をいただいた。改善につなげていく。	A	実施ができていた。	引き続き実施し、ご意見やご感想を今後に生かしていく。
		・児童、保護者、地域に向けて教育活動についてのアンケートの実施（2学期）	・保護者アンケートで「わからない」の回答が前年度より減少	B	B	B	児童アンケートを9月に実施。結果を分析し、今後に生かす	B	「授業の内容がよく分かる」の肯定的な回答が91%あるにも関わらず、学力に課題があるということはアンケートだけで図れないところも多い。	B	それぞれアンケートを実施し、結果の分析をするとともに次年度に生かしていく。提出率を上げる。	B	実施ができていた。	引き続き実施し、ご意見やご感想を今後に生かしていく。
教育の展開 特色ある	○働き方改革の推進	・スクールサポートスタッフ、副校長補佐の活用促進	・全教員による効果的な活用	A	A	A	教材準備、掲示、印刷、集計等、効果的な活用を実施	B	管理職のサポート体制はどのようになっているのか。	A	依頼できることを適切に依頼し、効果的な活用ができた。行事が集中するときに、依頼を振り分けてできた。	B	効果的な活用を望む。	引き続き促進していく。